

「英語教育改善プラン」に基づいた教員の英語力・指導力向上に向けた取組 H26年度～H30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～奈良県～

＜課題＞生徒の英語によるコミュニケーション能力の向上

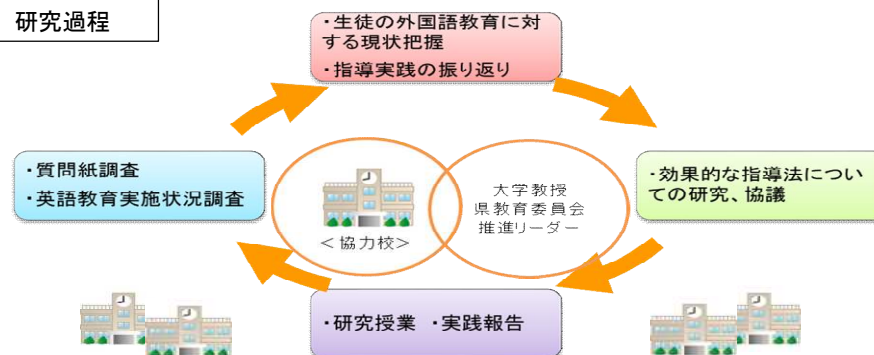
- ・バランスのとれた英語4技能の育成。特に、授業における「書くこと」「話すこと」の活動の充実。
- ・授業における教師の英語使用の増加。「発話の半分以上を英語で行っている」[H26年度42.7%]

○課題解決のための具体的な対策

取組の内容

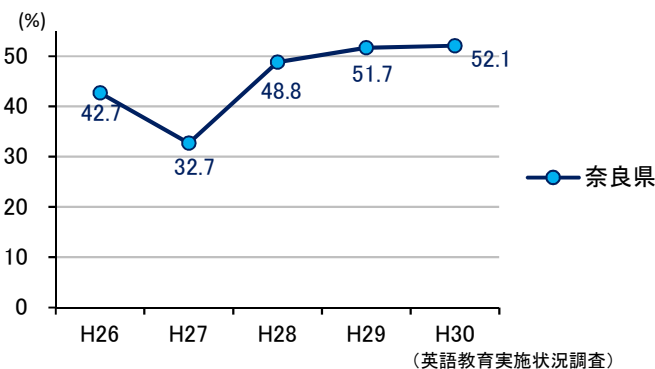
- パワーアップ講座の実施(5回)
 - ・大学教授による研修講座／・中央研修伝達講習
- 研修協力校における研究授業(3回)・協議会(5回)
 - ・CAN-DOリストに基づく指導と評価の改善
 - ・生徒の言語活動を多く取り入れた授業の工夫
- 新規ALT対象の研修講座の実施(2回)

研究過程



成果①

◎授業における英語担当教員の英語使用状況の向上
(普通科担当英語教員)



成果②

◎英語担当教師の英語力の向上
CEFR B2レベル以上を取得している教師数の割合
【H26年度36.0% → H30年度58.1%】

◎すべての公立高校における「CAN-DOリスト」形式の学習到達目標の設定

残された課題・今後の方向性

- ①生徒の言語活動の充実・高度化
 - ・高等学校では、より即興性の高い言語活動の展開を目指す。
 - ・スピーチやプレゼンテーション、ディベート等、論理的に自分の考えを発信する活動の機会を増やす。
- ②教員の英語指導力の向上
 - ・さまざまな講演会・研修会への参加。
 - ・校内研修の深化(パワーアップ講座との連携)。
- ③GTEC等の外部検定試験の効果的な活用
 - ・経年比較等の分析を通して、授業改善を行う。

平成30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～奈良市立登美ヶ丘小学校～

現状の課題と課題解決のための手立て

【課題】

・教員の多くが英語の授業に対して苦手意識をもっている。

【手立て】・英語に親しむことができる環境をつくる。

・系統立てた校内研修を企画・実施する。

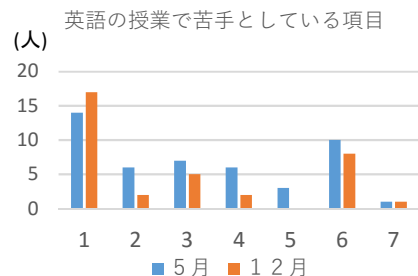
具体の取組の内容

- ・教員対象、児童対象アンケートの実施(5月及び12月)
- ・校内研修の実施:夏季休業を中心に講師を招聘し、課題に基づいたテーマの校内研修を年4回実施した。
- ・職員ミニ研修の実施:実践的なテーマ(授業の流れ、クラスルームイングリッシュ、絵本等)を扱い、短時間で行えるミニ研修を年10回実施した。
- ・公開授業の実施:1学期(5クラス)、2学期(3クラス)、3学期(3クラス)にわたり公開授業を実施した。
- ・奈良県立登美ヶ丘高等学校との連携:小学1～3年生の各クラスに高校生が参加し、英語の授業を行った。
- ・AEE訪問研修:奈良市英語教育アドバイザー(AEE)が2学期(1クラス)、3学期(5クラス)を参観し指導助言を受けた。



成果①

【教員アンケートの結果】



1. 発音、2. 歌、3. チャンツ、4. ゲーム、5. 絵本、6. クラスルームイングリッシュ、7. その他

- ・5月と12月の結果を比較した場合、項目1(発音)以外で苦手意識が減少している。
- ・特に絵本の読み聞かせについては、研修内容を授業改善にすぐに活かすことができた(5月5人→12月0人)。

成果②

【教員の変容】

- ・研究主題を設定し全校で取り組んだことで、英語の授業に対する教員の意識が高まった。
- ・ミニ研修等を通して、英語の授業の組み立て方が分かったことによって、英語に対する不安が軽減された。
- ・英語に苦手意識をもつ教員が少なくなった。



【児童の変容】

- ・めあての提示や振り返りカードの活用により、授業に見通しをもてるようになり、次の授業に繋げることができた。
- ・大きな声で発表できる児童が増え、ゲームや友達とのやり取りを楽しむ姿が増えた。
- ・スモールトークを活用したことで、単元やその日の授業に興味をもつようになった。

今後の課題・方向性

- ・英語の発音に対する苦手意識については、短期の研修だけで改善されるものではないことが分かった。今後も、教員自身がALTやAEEと会話をする機会を多く持つことが望ましい。
- ・今まで教員自身が英語に触れる機会が少なかった。児童も教員も楽しいと思える授業にするためには、英語に触れる経験を増やすことが必要である。
- ・今年度の取組を通して、各学年部会で指導案を検討し、全職員で英語の授業づくりについて協議する時間をもつことができた。今後も系統立てた研修に取り組んでいきたい。
- ・大部分の児童は英語が使えるようになることは大切だと感じているということが分かった。その児童の思いに応え、英語の授業が待ち遠しい、楽しみだと思わせる授業、外国語の教育を今後できるようにしていかなければならない。

平成30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～奈良県立登美ヶ丘高等学校～

現状の課題と課題解決のための手立て

- ・〔課題〕教師、生徒ともに英語を使用することに対する積極性が低く、生徒の言語活動の時間が不足している。
- ・〔手立て〕CAN-DOリストに基づく指導と評価の改善。生徒の言語活動を多く取り入れた授業の工夫。
 - 〔外部有識者を交えた校内研修の実施(年5回)／研究授業の実施(年2回)
 - 〔研究実践報告会を開催し、県内他の高等学校英語科教員と研究協議

具体の取組の内容

- CAN-DOリストを活用し、指導と評価の一体化を図る。
- 授業と結びついたパフォーマンステストを研究・実施し、ルーブリックを用いて評価する。
- 授業での教員の発話における英語使用の割合を50%以上にする。
- 外部講師を招いての研修会や講演会を充実させる。
- 地域の小学校との連携(高校生による出前授業、小学生を招いての英語イベントなど)

成果①

○1年生へのアンケート結果から

【年度当初(4月実施)】

- ・英語で話す意欲が低い。
- ・英語での発話に不安を感じる。



【年度末】

(3学期に同項目のアンケートを実施し、比較検討する)

成果②

○英語を使用する積極性の変容

・「言語活動→パフォーマンステストでの評価」という流れを確立した結果、生徒の言語活動が活発化した。

・言語活動を伴う授業において、教員の英語使用の割合が50%以上になった。

・英語検定受検者、合格者の増加(数値結果は学年末に調査し把握)

今後の課題・方向性

・言語活動の充実のために「知識・理解」は家庭学習で、「思考・判断・表現」を授業で行っていく。

・「情報の再構築力」「即興性」「論理的思考」を身につけさせる授業展開。

・学年の年間計画の作成

・外部研修、校内研修の充実

・ICT、シンキング・ツールの活用